

# 事務事業評価シート

評価年度	令和元年度	対象事業年度	平成30年度
------	-------	--------	--------

所属・担当者氏名	市民部 産業振興課 農業振興係 西村 美佳	評価責任者 (担当課長)	産業振興課長 高島 悟
----------	-----------------------	-----------------	-------------

## 1. 事務事業の種類

① 事務事業の名称	数量調整円滑化推進事業(水田農業経営確立対策事業補助金)	② 整理番号	03010403-001
③ 第4次総合計画の施策の体系	章	元気にぎわいのまちづくり	
	節	特性を生かした地域づくり	
	項	農業の振興	
	号	水田を中心とした土地利用型農業活性化対策の推進	
④ 関連する個別計画	水田農業ビジョン	⑥ 事務の種類	自治事務
⑤ 根拠法令・条例等	奈良県米需給調整総合対策事業推進費補助金交付要綱(数量調整円滑化推進事業分)		

## 2. 事務事業の概要

① 目的 (何のために)	平成14年12月に決定した「米政策改革大綱」において、米を取り巻く環境の変化に応じ、消費者重視、市場重視の考え方に立って、需給に即応した米づくりの推進を通じて、水田農業経営の安定と発展を図り、生産調整方針の作成運用に関する助言、指導、生産目標数量の通知と生産調整実施者の確認に取り組むため。
② 対象 (誰・何を対象として)	大和高田市全地域の農家
③ 手段 (どのようなやり方で)	県から通知される米の市町村生産目標数量を各農家に分配及び通知し、現地確認をする。 ①販売目的のネギ、シロナの作付10,000円/10a②販売目的のネギ、シロナを除く市特産野菜の作付8,000円/10a③市特産野菜以外の販売を目的とした転作作物の作付6,000円/10a④③を除く500㎡以上の転作作物の作付2,500円/10a⑤コスモスの作付20,000円/10a
④ 成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	需要に応じた売れる米づくりで計画的生産を図るとともに、本市の水田農業ビジョンに基づく水田農業構造改革交付金と連携して、農業の担い手育成、確保、地域の特性を活かした産地づくり、担い手への農地利用集積を進め、農業経営の安定と発展を図る。

## 3. 投入された年間総事業費及び人件費の推移

※概算人件費は「人件費計算シート」による

(単位：千円,人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
① 直接事業費	3,001	2,577	2,814	2,805	(予算) 3,000
② 概算人件費	3,658	(0.68) 3,484	(0.68) 3,446	(0.68) 3,453	
(関与比率) 一般職員	3,238	(0.43) 3,064	(0.43) 3,026	(0.43) 3,033	
(関与比率) 嘱託職員					
(関与比率) 臨時職員	420	(0.25) 420	(0.25) 420	(0.25) 420	
③ 合計(①+②)	6,659	6,061	6,260	6,258	
④ 特定財源 (国・県支出金、市債など)	190	173	159	159	0
⑤ 一般財源(③-④)	6,469	5,888	6,101	6,099	

#### 4. 評価指標

種類	指標名	指標の算出方法等	実績値			
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	① 実施面積	対象全農地面積	394.39 ha	389.62 ha	377.54 ha	377.54 ha
	②					
成果指標	① 達成面積	転作実施面積	120.55 ha	117.61 ha	108.03 ha	108.55 ha
	②					
効率指標	① 10a当たりのコスト	総事業費／実施面積	1,688 円	1,556 円	1,658 円	1,658 円
	② 10a当たりのコスト	一般財源／実施面積	1,640 円	1,511 円	1,616 円	1,615 円

#### 5. 項目別評価

評価の視点	3段階評価	評価の根拠
①妥当性 (目的及び市の関与は妥当ですか)	A	各農家の水田農業経営の安定と発展を図るためには、市内全農家を対象に行う必要があり、この事業を実施主体として、市が関与することは妥当である。
②有効性 (成果は向上していますか、向上していない場合向上のために改善の余地はありますか)	B	各農家組合長から各農家への周知は行っているが、着実な転作への成果には至っていない。
③効率性 (コスト・受益者負担は適切ですか、不適切な場合改善の余地はありますか)	B	転作への意欲が出るような助成金の見直しを行う必要はあるが、コストとしては、適当なものである。

#### 6. 今後の方向性 A 現状のまま継続、B 見直し（重点化、縮小、統合など）のうえ継続、C 休止、D 完了・廃止

判定	具体的な改善・見直しの内容（「B 見直しのうえ継続」の場合に限る。）
B	<input type="checkbox"/> 人件費の重点化 <input type="checkbox"/> 予算の重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 事業の統合 <input type="checkbox"/> 実施内容の変更 <input type="checkbox"/> その他
	農家の高齢化も進み、転作されたとしても毎年継続した作付けが困難な年もあるため、転作への意欲が出るような作付け品目や助成金の対象内容の見直しに努める。

#### 7. 2次評価 A 現状のまま継続、B 見直し（重点化、縮小、統合など）のうえ継続、C 休止、D 完了・廃止

判定	具体的な改善内容・改善計画（「B 見直しのうえ継続」の場合に限る。）